

佐須のどんど焼き



1月18日、祇園寺の東側にあたる畑地で恒例のどんど焼きが行われました。

調布では大正頃まで「セイノカミ」「ドウロクジン」などと言われ、当時は子供達が「セイノカミのモチくんない」と銭やモチ、竹などをもらい歩き、建てた小屋の中にはイロリも作り14日の晩から15日朝までモチなどを焼いて籠もった、という行事です。

国領付近で育った方は、子供の頃（昭和20年頃）近くのお稲荷様のところに建てられた小屋の中にドウロクジンの石を置き、オデンなどを食べた思い出がある、といいますが場所によってはかなり続いていたのでしょうか。

その後、火災の心配があるなどの理由で長いこと行われていなかったのですが、佐須地区では20年ほど前から青年会の努力によっ

て復活しています。

この日も朝から子供達に配るモチをつき、消防車もスタンバイ。次々に訪れる人達は正月飾り、お札や書初め、ダルマなどを置いていきます。

火入れは午年の年男、年女に当たる子供達が行いました。勢いよく燃えたあとは、おき火にモチをかざしこんがり焼いて食べ、感謝とともに無病息災を願いました。

このような伝統行事ができる場所がいつまでも残ることを願います。

調布の生き物 鳥編

ジョウビタキ

寒くなったら北の国や高地の繁殖地から、越冬のため移動して来る（渡り）カモの仲間、オオタカ等の猛禽類やツグミの仲間が目立ちます。年中観ている筈のヒヨドリやメジロがベランダや庭先に現れることも多いですね。

渡ってくる鳥の種類や数は多い年と少ないウラ年がありますが今シーズンはどうやらウラ年になりそうな気配です。この冬は市街地の住宅の庭や公園の緑地・農耕地・河原の草地等で比較的に見つけやすい「ヒタキ科のジョウビタキ」をじっくり観察してみましようか。

（見つけるポイント）

- ① ヒツヒツヒ・カッカッカと鳴く。（火打石を叩く感じで：火叩き↓ヒタキ）
 - ② 枝や杭・TVアンテナ・垣根や塀の上にとまり頭を上下に。（お辞儀をする）
 - ③ オスは白髪頭で黒地に両脇が白い紋付袴で腰から尾羽はオレンジが強い。
 - ④ メスは灰褐色の地に小ぶりの白斑と薄いオレンジ。共に嘴と脚の色は黒い。
- 双眼鏡を使うと逃げられることが少なくハッキリクッキリとよく見えるので、器量の良さと瞳の愛くるしさに礼儀正しさ（？）が加わり魅了されること請け合いです。

（環境モニター 里厚雄）



メス



オス

花の履歴書 24

戸部英貞 (絵・文)

セツブンソウ(節分草) キンポウゲ科



Shibateranthis pinnatifida - (Maxim.) Satake et Okuyama

植物は温度や日照時間の微妙な変化を感じて季節の訪れを知り、開花することは良く知られているが、それだけでは説明できにくいものも数多くある。

寒さが最も厳しい節分の頃に花を咲かせることから名付けられたこの草は、春がたけなわとなる頃には地上部の葉や茎は枯れ、小さな球根だけが地中で眠っている。以来、太陽を見ることもなく休眠していた球根は、この厳寒の中で季節を察知し、節分の頃に花を咲かせている。

かれこれ半世紀以上も前、植物好きの仲間の一人が、貴重な植物を手に入れたと、数株のセツブンソウを持ってきてくれた。セツブンソウは石灰岩地帯を好む植物で、開花期には毎年のように眺めに行っていた場所が石灰岩採石場の道路拡張でなくなってしまうので採集してきたとのことだった。庭の一部に、砕いた貝殻を土に混

昔の多摩川... ③

◆榎本勉さんのお話

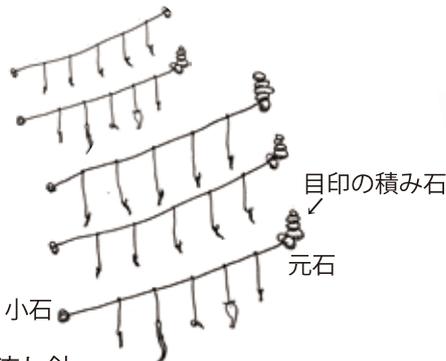
昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

子供の頃は自分は父親の魚捕りに付いていく程度だった。父親が捕ってきたコイやウナギ、ヘラブナはほとんど甘辛く煮て食べた。甘露煮のようにするのは男の仕事だった。ガジツカ(カジカ)も食べたが小河内ダムができてからはあまり捕れなかったなあ。父親は投網(トアミ)をよく使っていて、ウグイなどずいぶんたくさんに捕れたこともあった。

自分が大人になってからはガラスでできたビンドという物をよく使ったが六百五十円だったと思う。しばらくして同じ形のセルロイドでできたものが出来るようになった。流れないようにタコ糸で括っしておいてヌカやご飯、サナギなどを魚寄せに入れておいた。捕れるのは小魚。(※欧米ではマス釣りの餌用の魚を捕るための物だったらしい)

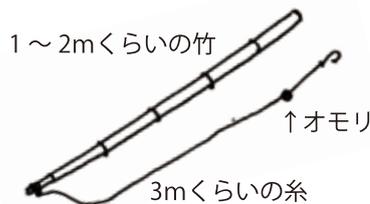
あんま釣りというのもよくやった。1〜2mの長さの細い竹の先に釣り糸を縛り付けて針を付ける。下流に向かって浅い流れのある所に糸をたらし押ししたりひいたりするだけ。今の子供達でも簡単に道具を作れるし、大勢で一斉にやったら面白いと思う。

流し針ではウナギが捕れた。岸の方に元石を置いて流れをまたいで小石を置き、糸を張って、間に5〜6本ドジョウなんかを仕掛けておく。ウナギは夜動くから夕方仕掛けて翌朝見に行くとかかっているんだ。父のころは捕れたウナギはカドヤ(上布田の料理屋)に持って行ったりしてたなあ。



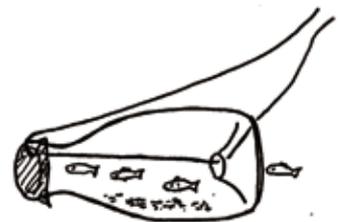
流し針

8m程のヒモを1度に5列ぐらい仕掛ける。夕方仕掛けて、夜行性のナマズやウナギを捕った。



あんま釣り

上流へ登ってくる魚を釣る。餌は小石の下などにいる川虫。春から夏にかけてヤマベなどが釣れた。



びんどう(ガラス笊)

出口のところには布などを張り、横倒しにして小魚が入った頃を見計らって引き揚げた。タナゴ・モロコ・川エビ・クチボソ(モツゴ)・ヤマベ(オイカワ)

若葉緑地の会

■11月10日(日) 参加者4名

林内は、すっかり秋たけなわでした。足元の万両にも秋の気配をみつけました。桜広場の柵沿いを風通しがよくなるように草取り、低木の伐採をしました。

■11月21日(木) 参加者2名

ホトトギスがまだ花をつけていたのを鑑賞しながら南広場にある崖に階段作りをしました。ヒヨドリジョウゴがヒサカキの低木に覆いかぶさってまるでクリスマスツリーの飾りのようでした。

■12月8日(日) 参加者9名

南広場にアカメカシワの幼木の群生を会員の方に指摘され徐伐、落ち葉掃き、そして一年無事に作業終了できたお礼にと道具を念入りに手入れしました。

■1月12日(日) 参加者13名

年初めて全員で林内を見て回りゴミ拾いをしたあと大坂入り口付近のアスマネサザ刈りをしました。

■1月23日(木) 参加者2名

第一広場の柵沿いに置かれた枯損木を踏みつけて、蜂が巣づくりしないようにしました。(神園)



クリスマスツリーのようなヒヨドリジョウゴ



年の終わりに念入りに道具の手入れ

カニ山の会

■11月9日(土) 晴れ 参加者3名

台風による落枝の片づけとササ刈を行った。エゴノキは10m以上の枯れ枝が落ちていた。アオキなどの陰樹もふえてきたので次回は剪定の予定。

■12月14日(土) 晴れ 参加者7名

夏の間、キャンプ場北側緑地の草刈り作業を行っていたため、東樹林の保全作業に手が回っていなかった。そのため全体に暗い林になっていたので今回は、上段部分のササ刈り(林縁部は残し)と陰樹の剪定・除伐を行った。

植物公園隣の雑木林で活動していた方が新しく入り、「植生が違っていてヤブコウジなどが多いのが面白い」との感想があった。

■1月11日(土) 晴れ 参加者12名

今年一年の安全を願って、恒例の「安全祈願」(酒・米・塩を供え)を皆で行った。2本根のエゴの1本が枯れており、通路への倒木の可能性があったため、ロープでコントロールしながら伐採。さらにキャンプ場北、植樹エリアのロープ柵が腐食していたため、先月除伐した木を杭とし、ロープ柵の補修を行った。昼からは新年会を兼ね、拾った枯れ木で火を熾し、キャンプ場で意見交換。(報告書より)



引っかけた伐採木をおろす



ロープ1本で新年会用の薪を運ぶ技

若葉の森3・1会

11月3日(日) 曇り 参加者4名

第1緑地・第2緑地で、10月16日の台風26号で折れた大枝の処分(写真)、散乱する折れた枝を拾い集めてコンポスト柵の補強(写真)、通路や階段の落葉かき、ゴミ拾いを行った。今月もギンランを観察。なお、練習後のサッカー少年が飛び入りでお手伝い、大枝切断も。

12月1日(日) 晴れ 参加者8名

暖かい日差しに包まれた、気持ちの良い活動日。雑木林ボランティア受講生が初参加、是非今後も参加を。六別坂の清掃では折りたたみ式ビニール製運搬袋(写真)に落葉を入れて斜面上部に戻した。また、コンポスト柵の補修、倒れかけた竹の伐採を行った。ギンランの果実は黒ずんできて、皮が裂けているものも観察できた(写真)。

■1月の作業はお休み。(N&O&K)



台風被害



折れた枝でコンポスト柵補強



ギンラン果実



坂道の落ち葉掃除に運搬袋を活用。落ち葉かきできれになった崖線斜面



坂道の落ち葉掃除に運搬袋を活用。落ち葉かきできれになった崖線斜面

入間・樹林の会

11月17日(日) 晴れ 参加者9人

3か月ぶりの晴天での作業。雑木林ボランティア受講生が参加し、全員でマテバシイ広場の整備を行った。マテバシイのひこばえの伐採、民家側のクズの伐採をし、まとめておいた。花・サザンカ、ヤツデ、セリ、シジュウカラ、メジロ、カラス

■12月15日(日) 晴れ 参加者12人

以前の落ち葉だめへの斜面地の階段づくり、11月にスタックした枝と葉にわけける作業、落ち葉だめへの運搬作業等に、2人の高校生が大きな助っ人となり、とてもはかどりしました。やはり人手が多いと作業が進む、との感想がしきり。まだまだ暗い林だとの感想もあり、これからのやりがいがいっぱいいます。花・サザンカ、ヤツデ、実・ヒヨドリジョウゴ、ヤブミヨウガ、ヤブラン、マンリョウ、センリョウ、マテバシイ、鳥・エナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、カラス

■1月19日(日) 13人全員で方形柵調査後、伐採する杉の検討、トン汁でのお楽しみ会。やはり林の中での集いは楽しい。(安部)



斜面地 落ち葉だめへの階段作り



お楽しみ会

雑木林ボランティア講座 中級編

1/25(土)ー粗朶垣による落葉溜め・バイオスタックー

役立つ実習編

雑木林の作業をしていると、落葉樹の落ち葉だけではなく、シユロやアオキ、ササなどの始末に困ることがしばしばある。また落ち葉溜めで堆肥を作ってもあまり活用することなく、放置することも多い。

そこで今回は講師に小池弘志先生をお招きし、雑木林の生物多様性を目指して小さな生き物たちのためのハビタット(棲みか)となる、伐採枝置き場を作る技を教えてくださいました。

本来は秋に作り越冬場所とするのだが今回は講座の時期が真冬になつてしまったため、虫たちの棲みかとなるのは来期に期待したい。道具の使い方や冬の虫のことなど、様々なお話も伺って大変興味深い講習会となった。



- ①まず道具の確認
ハサミ・ノコギリ・ロープ・カケヤ・ササガマも数を確認。
- ②ササ刈りで設置場所を確保
一箇鎌はササの切り口が開く方へ刃が当たるように、ササを逆手に握ると良い。
- ③シユロ抜き
大き目のシユロはロープを使って数人で引き抜く。



- ④シユロの生長点
これが残っていると伐採後も新しいシユロ口が伸びてくる。傾斜地で掘り出すと土が流れ出す原因にもなるので注意が必要。
- ⑤バイオスタックの枠
シユロや太めの伐採木は両側に置いて、間にササやアオキの伐採枝を積む。シユロは腐りにくい。
- ⑥完成！
伐採木を杭のように打ち込み、伐採枝を編み込むように積み重ねる。これで来期には虫達の棲みかになる。

大好き 野川

いないのも良い。

小鳥やカワセミ、鴨やコサギ、鯉、亀などに出会える野川、季節の移ろいを真っ先に知らせてくれる野川が大好きだ。こんな身近に自然と触れ合える場所がある環境を幸せに思う。歳を重ねるごとに、湧水を集めて流れる野川の存在感は増し、楽しむ方も増している。

ジョギング、散歩、橋の上やベンチから川面を眺める人々。野川の周辺にはいつもゆったりとした時間が流れ穏やかで平和だ。人々の暮らしと隔絶されて



小金橋の上から、富士山が綺麗に見えるのもこの時期だ。(手塚和美)

1/18日(土) 調布水辺の楽校 バードウォッチング

今回のバードウォッチングは、京王線の橋脚付近、「流下能力向上」のための護岸工事が行われている近くで開催されました。その影響かカモ類などが少々少なく全体で24種類。参加者は子供と大人合わせて33名と少なめでしたが、観察や質問などもしやすかったかと思えます。参加されたお子さんも保護者の方も一生懸命に双眼鏡などで水面を探していました。

水辺の楽校のH25年度の活動はこれで終了です。H26年度は、4月又は5月初旬開校を予定しています。(水辺の楽校サポーター・池ノ内伸行)



オオバンの子供

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜日に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 2/16(日) 9:30～12:00
- 3/16(日) 9:30～12:00

カニ山の会

毎月第2土曜日に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 2/8(土) 10:00～12:00
- 3/8(土) 10:00～12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/9(日) 9:30～12:00
- 3/9(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/2(日) 9:30～12:00
- 3/2(日) 9:30～12:00

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

H25年度環境学習交流会

● 2月16日(日)～21日(金)までたづくり北ギヤラリーや映像シアターで環境活動グループ及び市民による交流会が開かれます。

詳しくは調布市HP、またはちょうふ環境市民会議HPをご覧ください。

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋さんなど。置き場所&応援カンパ募集中です!

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆